

## 小学生協力隊となって任国（パラグアイ）に協力しよう！

武田 幸治

茅ヶ崎市立東海岸小学校

◆実践教科：社会科、総合的な学習の時間、道徳

◆時間数：10 時間

◆対象学年：小学校 6 年生

◆対象人数：36 人

### ◆実践の目的◆

学習指導要領には、  
各教科「社会」[第 6 学年] 2 内容

(3)世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

ア 我が国と経済や文化の面でつながりの深い国の人々の生活の様子

イ 我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の動きと記されている。

そこで、社会科「世界の平和を支える人々の活動を調べよう」と関連させて、授業を展開させた。

また今夏、教師海外研修（JICA 主催）に参加し、発展途上国であるパラグアイを視察させてもらった。そして、いくつかの学校や青年海外協力隊の活動を視察させてもらった。協力隊に参加している人々は、自分が学んできた農業や医療、教育、土木などの知識や技術を生かして活動している。世界の諸問題の改善のために様々な分野で活動している人々は、強い使命感を持って取り組み、それぞれ自分の得意な分野での能力を生かして貢献している。

本学級の児童は「総合的な学習の時間」などを通し、国際理解に取り組んでいる。そのためか、外国や語学への関心や理解も高い。しかし、彼らがイメージする外国は、先進国であり、発展途上国をイメージする児童は少ない。この学習を通して、自分たちの国を見つめ直し、世界を見つめ直してほしい。

また、世界で活躍する日本人と言えば、マスコミなどで報道されるようなスポーツ選手などしか思い浮かばないが、それ以外にもこのように発展途上国で活躍する日本人がいる。彼らが、どのような思いを持ち、活動をしているのかを知ることにより、児童が、今自分たちができることを真剣に考えるきっかけになればと思う。

### ◆授業の構成◆

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1・2 時限目（道徳）</b> テーマ： 「世界がもし 100 人の村だったら」 ねらい： 発展途上国で起こっている事情を知ること	ビデオを観る	・（ビデオ） 『世界がもし 100 人の村だったら』
<b>3 時限目（社会科）</b> テーマ： 「青年海外協力隊とは」 ねらい： 協力隊の基本的な知識を与えること	活動している国や職種を紹介し、自分が知っている国や職種をチェックする	・（参考文献） 『海をこえるボランティア先生』 ・（参考資料） 『協力隊職種一覧表』

<p><b>4 時限目 (社会科)</b>          テーマ：          「協力隊員の活動や思い」          ねらい：          協力隊員の活動や思いを知ること</p>	<p>ビデオを観る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(ビデオ)            『協力隊ってなんだろう?』            『青年海外協力隊「どんな夢?」』</li> </ul>
<p><b>5 時限目 (総合)</b>          テーマ：          「パラグアイの子ども、学校を見てみよう」          ねらい：          フォトランゲージを通して、パラグアイを知り、自分たちの生活を考えること</p>	<p>フォトランゲージを使い、自分たちの学校と比べながら、「同じ、違い、いいな」と思うところを探す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラグアイで収集した写真</li> <li>・ワークシート①</li> </ul>
<p><b>6 時限目 (総合)</b>          テーマ：          「もしもパラグアイが 100 人の村だったら」          ねらい：          パラグアイで起こっている事情を知ること</p>	<p>ワークシートを使い、予想される数字をみんなで考え、気づいたことを記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート②</li> <li>・(参考文献)            『もしもパラグアイが 100 人の村だったら』</li> <li>・パラグアイで収集した写真</li> </ul>
<p><b>7・8 時限目(社会科)</b>          テーマ：          「国 (パラグアイ) 調べ」          ねらい：          パラグアイの基礎的知識を日本と比較しながら、それぞれの文化を知る</p>	<p>インターネットを使い、パラグアイ、日本について調べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート③</li> </ul>
<p><b>9 時限目 (総合)</b>          テーマ：          「小学生協力隊員となって任国に協力しよう」          ねらい：          自分ができそうなことを今まで学習したことを踏まえ、考える</p>	<p>ワークシートを使い、自分たちができそうな協力活動を 3 つ考え、記入する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート④</li> <li>・付箋 3 枚</li> </ul>
<p><b>10 時限目 (総合)</b>          (公開研究会研究授業)          テーマ：          「小学生協力隊員となって任国に協力しよう」          ねらい：          グループで、協力できる活動を話し合いし、考える</p>	<p>グループで、協力できる活動を話し合い、発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート④</li> <li>・付箋 3 枚</li> <li>・分類用ワークシート⑤</li> </ul>

## ◆授業の詳細◆

### (1・2 時限目)「世界がもし 100 人の村だったら」

事前学習として、発展途上国で起こっていることを知ってもらうために『世界がもし 100 人の村だったら』のビデオを視聴した。児童は集中して観ていた。

### (3 時限目)「青年海外協力隊とは」

青年海外協力隊について知ってもらうため、参考資料『海をこえるボランティア先生』の一部を使い、協力隊についてや、協力隊の活動している国を確認した。そして、自分が知っている国をチェックした。よく知っている児童は、50 近くの途上国を知っていた。また、協力隊職種一覧(青年海外協力隊ホームページより)を使い、どんな職種があるのかを確認した。児童はスポーツ部門で協力できることに驚いていた。

#### (4時限目)「青年海外協力隊とは」

JICA 横浜から借りたビデオ『協力隊ってなんだろう?』、『青年海外協力隊「どんな夢?」』を視聴した。内容は、協力隊の活動、苦勞、想いを紹介していた。児童は集中して観ていた。

#### (5時限目)「パラグアイの子ども、学校を見てみよう」(フォトランゲージ)

パラグアイで撮ったある学校の校舎、教室、運動場、時間割、子どもたち様子の写真とワークシートを使い、自分たちの学校と比較しながら、「違う」「同じ」「いいな～」と思うところを考えてもらった。どの児童も、たくさん「違う」「同じ」「いいな～」を記入できていた。

#### (6時限目)「パラグアイがもし100人の村だったら」

JICA パラグアイ事務所でもいただいた資料からいくつか抜粋したもの(「子どもの平均数」「子どもの労働」「栄養失調」「平均教育年数」「水」)について、100人のうち何人いるのかを児童に予想してもらった。また、その理由についても考えてもらった。最後に感想・意見を書いてもらった。児童はその理由についてもよく考えて発言していた。

#### 5・6時限目の学習を終えての児童の感想・意見(一部抜粋)

- ・日本とは全然違った。貧しい人達は、ろくに学校に行けてなかったけど、楽しそうだった。
- ・日本と全然違う環境にびっくりした。けど、それでもそこに住んでいる人は楽しくくらししていると思う。
- ・パラグアイの人々や、それ以外の貧しい人々に改めて何かしてあげたいと思いました。いつかこんなことがなくなるといいと思います。
- ・先進国の日本で生活する僕は、発展途上で生活している人のことを知る義務があると思う。そして、ただ知っただけでなく自分には何ができるかを知って、行動すればいいと思う。今は自分のことだけでなく世界のことを考えたほうがいいと思う。

#### (7・8時限目)「国(パラグアイ)調べ」

パソコンルームにあるパソコンを使った。日本と比較しながら、パラグアイについて調べた。基本的データ(首都、人口、面積、気候、宗教、産業)を調べ、「日本にあって、パラグアイにないもの」または「パラグアイにあって、日本にないもの」について調べてもらった。この資料は次時に使うための資料作成である。児童は、楽しそうに検索していた。

#### (9時限目)「小学生協力隊員となって、任国に協力しよう①」

前時で調べた資料を活用し、「小学生協力隊員となり、パラグアイに行って、協力するならば、どんな活動ができるのか」を考えてもらった。

条件として、①パラグアイの文化や自然などの特徴を踏まえているか。

②金銭的(物質的)な支援はできない(お金をあげる。物をあげる)。

ただし、何かを準備するために(例えば、折り紙を購入するなど)お金を使ってもよい。

以上の条件を踏まえ、「やってみたい協力活動」を3つ考えて、ワークシートにまとめてもらった。

また「やってみたい協力活動」を付箋にも記入してもらった。児童はそれぞれ自分のやってみたいことを真剣に考えていた。

#### (10時限目)「小学校協力隊員となって、任国に協力しよう②」(茅ヶ崎市内公開研究会・公開授業)

前時で児童がまとめた付箋を使い、グループで、それぞれが考えた「やってみたい協力活動」を分類し、参考にしながら、自分たちのグループでできそうな協力活動を話し合ってもらった。そして3つグループとして意見をまとめ、発表してもらった。児童は真剣に意見を出し合っていた。最後に感想・意見を書いてもらった。

## 10 時限目の学習を終えての感想・意見（一部抜粋）

- ・パラグアイについて調べてよかったし、本当に「小学生協力隊員」となっていたら行ってみたい。
- ・パラグアイの人と私たちは文化がまったく違うだろうから、今日のことなどを本当に教えてあえてらいいと思った。
- ・協力隊員になれば、他の国を助けられるということが分かった。
- ・みんながどんなことをパラグアイの人に伝えたいのかが分かった。
- ・こんな僕でも考えてみたら、できることがあることが分かった。
- ・今日の授業でパラグアイの人たちにしてあげたいことがふえた。
- ・自分の班では、文化、食べ物系が多かった。でもやっぱり「日本のことを知ってもらいたい」や「みんな楽しく遊びたい」は多いんだなと思った。
- ・パラグアイの人達が知らないことを教えてあげたり、一緒にできたらいいと思った。逆にパラグアイのことももっと知りたくなった。

## ◆所感・反省点◆

この学習を通して、児童は自分たちの国を見つめ直し、発展途上国について知り、自分ができることについて考えることはできたと思う。

反省点として、青年海外協力隊員を講師として招き、生の声を児童に聞かせれば、もっと学習が深まったと思う。そして、時間などの関係もあり、児童がここで学んだ事を、何かの行動に移すことまでには至らなかった。児童が行動に移すまでできれば、もっと学習が深まったと思う。

また、校内研の研究テーマ『認め合う・伝え合う・関わり合う』とも絡めて、授業を行った。研究討議では、教師の橋渡しがとても重要であることを再認識した。

国際理解は、自分の国を見つめ直し、他国の文化の違いを受け入れることでもある。このことは学級経営にも当てはまると考える。今後も国際理解の研究を深め、学級経営にも生かしていきたい。

## ◆資料◆



パラグアイへ訪問(研修)の  
じかんわり(HOLALIO)

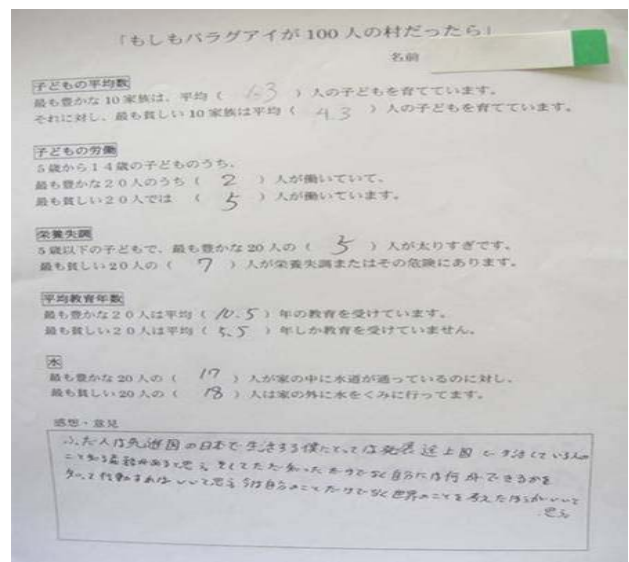
	月 lunes	火 martes	水 miércoles	木 jueves	金 viernes
14:00~	さんすう	(E-S)	さんすう	たいいく	さんすう
14:40~	しゅつがい	ほけん	えんけい	E-ESPA	えんけい
15:20~	E-Spanol	Salud	Centro	MOBIL	Salud
15:20~	やすみじかん (Receso)				
15:40~	にほんご	さんすう	こくご	いんげん	かみ
16:20~	英語	フランス	スペイン	さんすう	こくご
17:00~	音楽	英語	スペイン	さんすう	こくご
17:40~	E-Math	E-Spanol	スペイン	ほけん	こくご



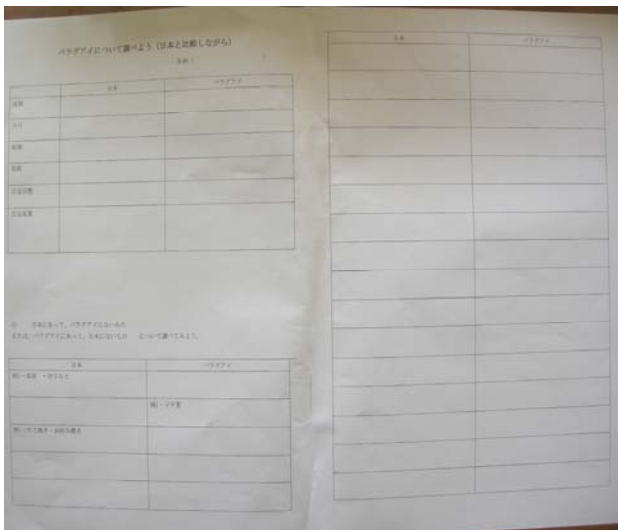
フォトランゲージ



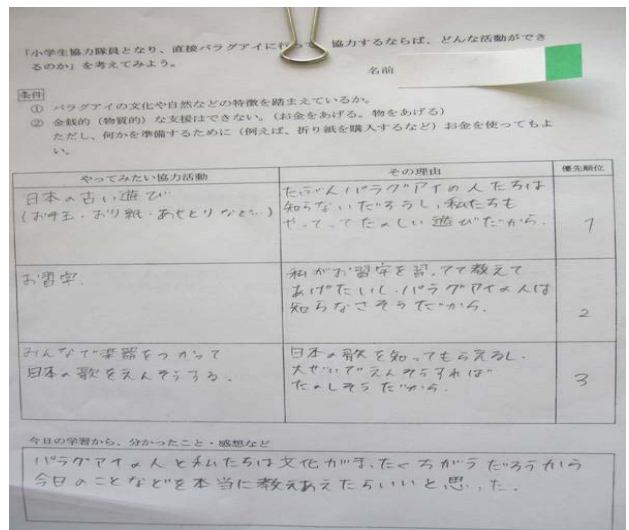
ワークシート①



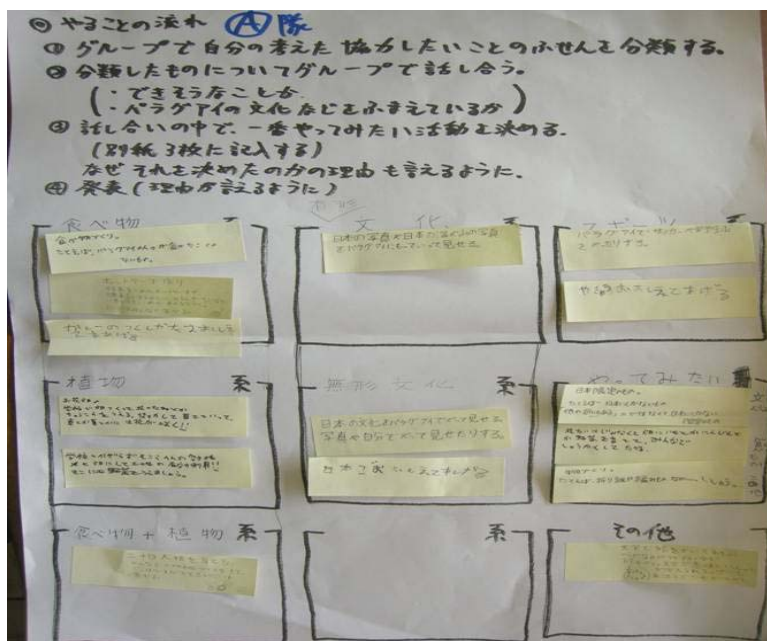
ワークシート②



ワークシート③



ワークシート④



分類用ワークシート⑤



クラスで出た意見